

# Solan Primary School

4th grade news letter

# Venture

# Fourth

2023. Jan 15

## 栃木県・神馬充先生より

金曜日は、北海道、岩手県、栃木県、奈良県、岡山県から総勢 10 名の先生方が来られました。

お目当ては、シンプルに4-1の学級を参観することです。

そのためだけに、新幹線、車、飛行機などなどを使い、一番遠いところでは1000kmも離れた場所から見学に来られました。

先生方から、続々と感想のレポートが届いていますので、VentureFourthで順番に紹介していきます。



瀬戸 SOLAN 小学校 4 年生の皆さん、神馬です。覚えていますか？  
また、必ず来ると約束したあの先生です。  
覚えていてくれたら、嬉しいです。

先生は、皆さんとの出会いを忘れません。それは、また会いたいと思える人たちであったから。出会って、数時間の出来事です。自分でも不思議な思いです。たったそれだけの時間で、どうしてこうも引きつけられるのか。どうしてこれほどまでに、4 年生の皆さんは魅力的なのか。

少し考えてみました。そして、まとめてみました。もしかしたら、それが皆さんの強みなのかもかもしれません。よろしければ最後まで、読んでいただけたら幸いです。

#### 「コミュニケーションカ」

一つ目は、コミュニケーションカです。先生は、出会ったその瞬間からプレゼントをもらいました。「挨拶」と「関心」です。

私たちの姿を見かけた仲間たちが真っ先に「おはようございます！」と声をかけてくれました。その時、先生はどう思ったと思いますか？

それは、「あ、この学校で 1 日過ごしていいんだ。」と思ったのです。それは、安心感と言い換えられるでしょう。先生は栃木県から来ました。瀬戸市はもちろん、愛知県に初めてきました。そしてもちろん、皆さんの小学校に足を運ぶのも初めてです。

ドキドキしていました。受け入れてくれるかな？誰だあいつー？と思われないうち。様々な不安の中で、歩いていたのです。そこに、4 年生の挨拶が飛んできました。言葉としては、「おはようございます。」ですが、先生が受け取ったメッセージは、「いらっしゃいませ、どうぞ安心して学校見学なさってください。今日 1 日、仲間ですよ。安心してください。」です。そう言われているように思えたのです。仲間ですよ、安心してくださいと。

そんな挨拶から始まった 1 日。

もう、その瞬間に、今日はこの上ない幸せな 1 日になることを確信しました。

そして、名前を覚えてくれること。

これは、最高のプレゼントです。朝のうちにどれほどのプレゼントをもらったことでしょうか。「神馬さん」「神馬先生」繰り返し、繰り返し、呼んでくれて。

名前って、きっと無意識でも自分が一番大切にしているものだと思うのです。

それは、私が生まれた瞬間、初めて送られたプレゼントが「名前」だからです。生まれてきてくれてありがとうというプレゼント。そこにはきっと、親からの願いや想いが込められています。

そんな大切な名前を、皆さんは大切にしてくださったのです。

嬉しいにきまっていますよね。

せっかくの出会い、またあの素敵な挨拶のお返しを、何か言葉のプレゼントとして

皆さんに届けたい。そう思っていたのにもかかわらず、またもやプレゼントをもらってしまっていたのは私の方でした。

そして、合わせて感動したことが、皆さん自身もご自身の名前を大切にしているところでした。「私はこういうものです！ぜひ覚えてください！」というような、自分自身を売り込む力。それにも驚かされました。

自己プレゼン力とでもいうのでしょうか。相手に自分を知ってもらってなかなか難しいことですね。それでも皆さんの振る舞いを見ていると、「知りたい！」と思うのです。もっともっとあなたを知りたいと思わせる雰囲気は、出そうと思っても出せないものです。「もっと知りたい！」と自然に思うのは、いくつか理由があると思うのですが、まず一つは皆さんが先に、関心を寄せてくれたことだと思っています。「お名前は？」「どこからきたのですか？」と口々に質問をしてくださいました。質問されるって嬉しいんですよね。あ、自分に興味をもってくれているのだ、関心をもってくれているのだと感ずるので。それは、仲間ですよというメッセージを超えて、認めてもらっているような思いでした。そして、道徳の授業の時にもその質問はたくさん私に届きました。目が合って、ぱっと寄ってきてくれる。そして質問してくれる。そんな関心を寄せてもらっていると、私の方も皆さんのことをもっともっと知りたくなるのです。「何が好きなのかな？」「どんなことに興味があるのかな？」と。皆さんのその相手への関心の寄せ方、質問力はものすごく磨き上げられたものだなと思います。

また、自己表現力という点でいうと、圧倒されたのは皆さんの「声」です。

ハリがり、

艶があります。返事も、発表も、暗唱も、音読も。その「声」に惚れました。

お客さんがいて、クラスメイトの前で、あれだけ自分の気持ちを「言葉」や

「声」として表現できる4年生を、いや、小学生を私は初めて見たのです。それはすごいというレベルを悠に超え、感動するレベルでした。物事は、ある一定以上のレベルを超えると、感動を産むといいますが、まさに「感動」そのものでした。

おそらく、初めは全員が全員「言葉」で表現することが得意だったわけではないのかなと想像します。しかし、他と比べず、自分自身に矢印を向け、理想の自分と過去の自分との間で比較をして磨いてきたのだと思います。

それができたのも、進み方も、速さも、得意不得意も違って当たり前だという前提に立ち、違いを楽しみ、認め合う仲間たちがそばにいたからなのかなとも思います。

安心できる空間の中で、認め合いながら、自分の目指す道へのびのびと育ち行く皆さんの姿は、朝焼けに照らされた名古屋城（朝、ジョギングをしているときに眺めました。）と肩を並べるほどの絶景でした。

それにしても、詩、短歌、社会の内容、算数の筆算などあれだけ諳んじることのできる子どもたちを見たことがありません。すごいな～。圧倒されました。

自分を表現したり、相手を知ろうとしたりする皆さんのコミュニケーション力は、きっと出会う人たちに、「あ、この人と仕事をしたいな。」と思わせることでしょう。だからまた会いたいと思うほど、人を惹きつけるのです。

#### 「自分に矢印を向ける自己研磨」

皆さんを見て、驚いたことは他にもあります。その一つが、「他者への批判、否定が一つもない。」ということです。これって驚くべきことなのですよ。私も毎日、子どもたちを相手として仕事をしている身ですから、分かるのです。その凄さを。

例えば、辞書引き。皆さんの速度はきっと道路に出たらスピード違反で捕まってしまうのでは？と思うほどのスピードです。そして、トップ 10 を目指して、自分の最大限の力を注力します。次々と手が拳がる。そしてそのときの声にもハリと艶。自ら学んでやるぞ、次はなんの意味を調べるんだ？いつでもこい！！と言わんばかりの煌めく眼差し。それぞれが、それぞれに、全員熱中しているのです。例えトップ 10 に入れなくとも、「入ることを目指す」ということを諦めていないのです。

そんな美しい姿を見て、ふと思ったのです。これほどまでに、速く調べられたとしても、遅れてしまったとしても、熱中できるのはなぜかと。

その答えを発見した気がしました。

それは、「ポジティブな自責」だと。

誰かが速かったときに、「〇〇するくない??」という言葉が出てもおかしくないんですよ、本来。皆さん素早さを目指して夢中になっているので、ついそうになってしまうことってあるのですよ。でも、皆さんにはそれがありません。

あの白熱した百人一首でも、相手に対して「ズルだよ!」「今のなしたよ!!」という、他者への文句や否定は一つもありませんでした。

もう一度言いますよ。あれだけ白熱しているのです。一生懸命なのです。熱中しているのです。相手に先を越されたらな「何くそ!」となりますよね。

でも皆さんには、相手への文句や批判がやっぱりないのです。

「他責」じゃないのです。

うまくいかないことがあって、「相手がズルした」「相手が悪かった」というのは一番楽ですが、皆さんはそれが自分の成長を生まないことをわかっているのですね。

そして、悔しがる時も、何くそとなる時も、それは「もっとできるようになりたい」という理想の自分と比べたときの、今の自分に対して言っているのです。

矢印がいつだって自分に向いているのが皆さんでした。

批判や否定が一つもない世界で一番平和な場所が、瀬戸 SOLAN の4年教室にありました。

ついつい生きていくと、誰かのことが気になるものです。私は恥ずかしい話、相手はどうだとか、誰かはどうか、到底分かり得ない、到底なりきることでできない他者に対して、羨ましがり、比べて落ち込んだこともあります。

自分がうまくいかない原因を他者に向けて、自分が安心しようという卑怯で弱い心になったこともあります。

大人でもそうなのですよ。特に日本はその傾向が強いように思います。他と同じにしなければならぬとか、他と比べてどうか。他に矢印が向きすぎているんですよ。

あなたの人生は、あなたしか生きれないのに。

私の人生は、私しか生きられないのに。

そんな、勇気にも似た何かを皆さんから受け取った気持ちなのです。



大きく背中を押されたというか、力強く励まされたというか。

翼を授けてもらったそんな感覚です。

自分に矢印を向け、自分を見つめ、理想の自分をめざして、自分自身を磨き続けようと思うのです。

そんな言葉でもなく「姿」一つで、人の背中を押せるほど、違いを認め、自分自身に矢印を向けて磨いている皆さんだから、やっぱりまた会いたいという気持ちになるのだと。

私は、自分の学校で3年生を担当していますが、クラスの子どもたちに皆さんの姿を見てもらいたいと心から思うほど、感動しました。「愛知県の瀬戸市というところにみんなより、1つしか変わらない4年生で、ものすごい人たちと出会ったんだよ。」と自慢しようと思います。

皆さんは、私の20歳くらい年下です。それでも年齢なんて関係ないのですね。皆さんからたくさんの学びのプレゼントをもらった私です。

その学びのプレゼントをお土産として、私自身が成長することはもちろん、自分のクラスの子どもたちが皆さんのように豊かに育てゆくように努めていきます。

素敵な巡り合わせでしたね。感謝しています。

皆さんとクラスの子どもたちがつながるように、実はある仕掛けをしました。

それは、ごとうゆいさんが『子どもの権利』という素敵な本を私に紹介してくれたとき。私は、その場でAmazonのアプリを開き、ポチりました。その本がとってもおもしろそうだなと思ったことが理由の一つ。またもう一つは、その本を見るたびに皆さんのことを思い出すことができるから。

そして、その本を私のクラスの学級文庫に追加するつもりです。

瀬戸で出会った子どもたちが紹介してくれた本を、栃木の子どもたちがそれを読む。

遠く離れた場所だけれど、なんだかつながっている感じがして、素敵だと思いませんか？

この出会い、縁を忘れません。

出会ってくれてありがとう。

栃木県で先生をしている神馬充。

☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

